



大浜中だより

－保護者と地域の皆様への広報誌－

平成 29 年度
10 月号
掛川市立大浜中学校

－ほめて伸ばそう 叱って正そう－その2

－「やさしさ」過剰社会－

1 叱ることはだめか

『やさしさ』過剰社会-人を傷つけてはいけないのか- (榎本博明著、PHP 研究所)。以前、ネットで見つけた気になる本です。叱らない上司・親、重たい話を避ける友達。ほめる子育てが流行り、パワハラが問題視される現代社会。叱ること、厳しく接することはタブー視されています。

この本を見て、以前私が受けた面接試験を思い出しました。面接官は「あなたは部下を叱りますか」といった質問をしました。私は躊躇無く「叱る」と答えました。しかし、何度も問い返す面接官。「叱らないと答えた方がよかったのかな。」やや不安になる自分。しかし、改めて「怒ることはだめだが、指導としての『叱る』はある。」と私は答えました。

2 基準を持っていない学生

ある会合で、静岡大学の准教授がこんな話をされました。最近の学生は、自分で判断できない。自分としての基準が持てていない。レポート提出のとき、コーヒーをこぼしたレポートを持ってきて「ちょっとしみが付いちゃったんですけど、これでもいいですか。」とか、「ホッチキスがなかったの、とめてないんですけど、いいですか。」とか。相手が「いいよ」と言ってくれたらそれでよしとする考え。自分として「こうあるべき」といった基準が持てていないとのことでした。

3 自分で判断できる基準を持たせるために

自分の中に「基準」が持てるように、「真似て覚える」ことからスタートし、基本を覚え、その中で徐々に基準を作っていくことが重要です。まずは「基礎・基本」の徹底ですね。しかし、それだけではなかなか進みません。そこにプラスして必要なのが、他者（先輩や仲間）による「適切な指導や助言」です。

ところが、「やさしさ」過剰社会がそれを邪魔しています。本人にとっていいことなのですが、指導したことによって生じる人間関係を危惧して、敢えて言わないという人が増えていきます。相手を傷つけることや反発されることを恐れて、直すべき点をはっきりと指摘しないでスルーしてしまう。本当にそれでいいのでしょうか。

改めて「本当のやさしさ」とはなんだろうと考える今日この頃です。



大浜学園で取り組んでいる「子育て五か条」。その中から8月号では「ほめて伸ばす」、今回10月号では「叱って正す」に焦点を当てました。ほめることと甘やかすことは違います。叱ることと怒ることも違います。ぜひ一度、その違いについてじっくり考えてみてください。子どもとの関わり方を変えるきっかけになるかもしれません。

(校長：堀内)

